

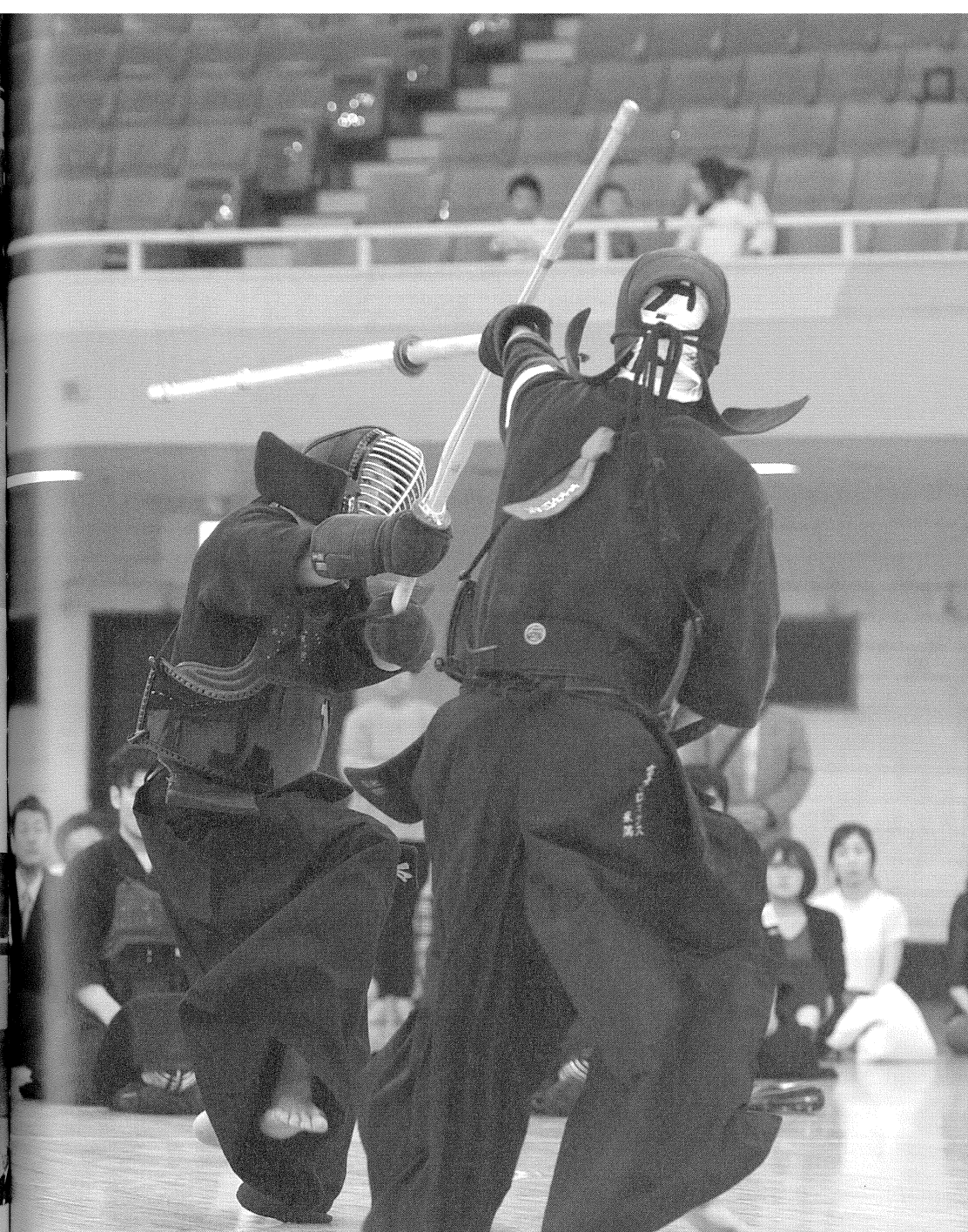
第59回 関東実業団 剣道大会

平成29年6月4日(日)
日本武道館
主催=関東実業団剣道連盟
撮影=窪田正仁

黄金時代再来の予感 富士ゼロックス(本社) 連覇!

一般の部

チーム	勝	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス(本社)	②	①	②	③	④	⑤	3
伊田テクノス(本社)	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	0



決勝

【先鋒】米満(富士ゼロックス・本社)②— 図末(伊田テクノス・本社)

上段からの技が冴えに冴え、この日大車輪の活躍を見せた法政大学出身の新鋭米満。決勝戦も試合開始から激しく技を繰り出して図末にプレッシャーをかける。力強い踏み出しで図末の居着きを誘った米満、片手メンを打ち下ろすとこれが見事に決まった(写真)

ひとつのヤマ場となったのは準々決勝の東洋水産(本社)との対戦だろう。実業団剣道界の強豪である東洋水産は、2回戦で三井住友海上(本店)と対戦。今年4月に開催された全日本都道府県対抗優勝大会では東京都が優勝に輝いているが、三井住友海上はその優勝メンバーである。

240チームがエントリーした今大会を制したのは富士ゼロックス(本社)だ。同チームは前年度覇者でもあり、今回の優勝で見事連覇を達成。優勝回数を8回へと更新した。

過去には大会3連覇(第45回〜第47回)を達成したこともある富士ゼロックスだが、その後はなかなか決勝進出が叶わず、苦しい時期を過ごした。平成25年(第55回大会)にて3連覇以来の優勝を遂げると、一昨年は大会2位、そして昨年の優勝と近年はその強さに安定感が加わってきた。

今大会の富士ゼロックス(本社)は、先鋒に新戦力の米満を投入。法政大学出身のこの上段剣士がチームの牽引役としてその役割をまっとうした。

続く次鋒のポジションには、緒戦の2回戦こそチーム最年長(38歳)の岡北が出場したが、以降は控えに回っていた東郷が交替出場。前回大会では先鋒を務めた東郷もまた九州学院(熊本)、法大とトップレベルで活躍してきた実力者である。この米満、東郷のツートップが上位に上がるに連れてチームに勢いをもたらした。

鈴木と高村の2名を擁している。接戦が予想された東洋水産と三井住友海上の戦いはやはり中堅まで引き分けが続く緊張感あふれる展開となる。勝負の決め手となったのは副将戦。東洋水産の秀徳が対する中村から二本を奪い、結果的にこの1勝によって東洋水産が勝利を収めた。

優勝候補の一角を破った東洋水産に対して、富士ゼロックスは前衛2人がともに二本勝ちの連勝で圧倒。中堅戦こそ一本負けを喫するも、その後はポイントを許すことなく勝利を収めた。

その後の準決勝でも日通商事(本社)を相手に前衛3人の勝利で押し切った富士ゼロックス、決勝戦の相手となったのは伊田テクノス(本社)であった。

3回目の優勝を狙った今大会の伊田テクノス(本社)は、大黒柱であり不動の大將であった橋本が副将のポジションにエントリー。大將は全日本選手権大会への出場経験がある奥島が務めるという新しい布陣で戦いに臨んだ。

4回戦の大塚家具(本社)との戦いは苦しい代表戦を次鋒水森の踏ん張りで乗り越え、その後は中堅石山が安定感を増すなど、まさにチーム一丸となつての決勝進出と言えた。

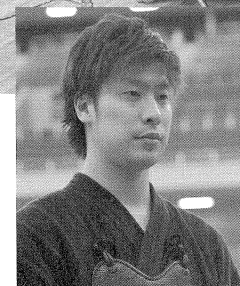
決勝戦は先鋒戦に尽きるだろう。上位争い、それが優勝決定戦ともなれば戦い方も慎重になるのが常だが、上段の米満が伸び伸びと躍動。鮮やかな片手メンを打ち込めばこれで主導権は一気に富士ゼロックスのものとなり、次鋒、中堅と連



優勝 富士ゼロックス(本社)

東郷知大(24歳)、米満広将(22歳)、岡北真輔(38歳)、上原祐二(35歳)、北川清太(24歳)、岩川力(28歳)。
監督=野口淳司

最優秀選手賞
米満広将(富士ゼロックス・本社)



中堅戦、ベテランの上原が見事な出ばなメンを連取して有終の美を飾った(写真は一本目)

先鋒米満の勝利を受けた東郷は、完璧な機会をとらえたメン返しドウを決めて連勝(写真)





5回戦

日本通運(本社) 0代-0 富士ゼロックス東京(本社)
【代表】柴田 一 野村

▲先鋒戦から大将まで引き分けに終わり、代表戦へと突入。副将の柴田と大将野村の対戦となった代表戦は長期戦となった。互いに集中力を切らさずに戦った両者だが執念でわずかに上回った柴田が跳び込みメンを決めて決着(写真は柴田の攻め)



2位 伊田テクノス(本社)

渡辺恵一(43歳)、岡末悠介(24歳)、水森大貴(24歳)、石山邦良(31歳)、橋本桂一(36歳)、奥島和泉(29歳)。監督=佐々木誠



3位 日通商事(本社)

諸江智也(37歳)、金成宗次郎(29歳)、中野真広(34歳)、川上宗貴(24歳)、賀川篤仁(23歳)、山内三士郎(26歳)。監督=篠京之



3位 NTT東日本(東京)

早川威(24歳)、青木祐喜(26歳)、若松守(28歳)、岡晋輔(37歳)、阿南隼人(31歳)、下村和弘(31歳)。監督=福住雅男

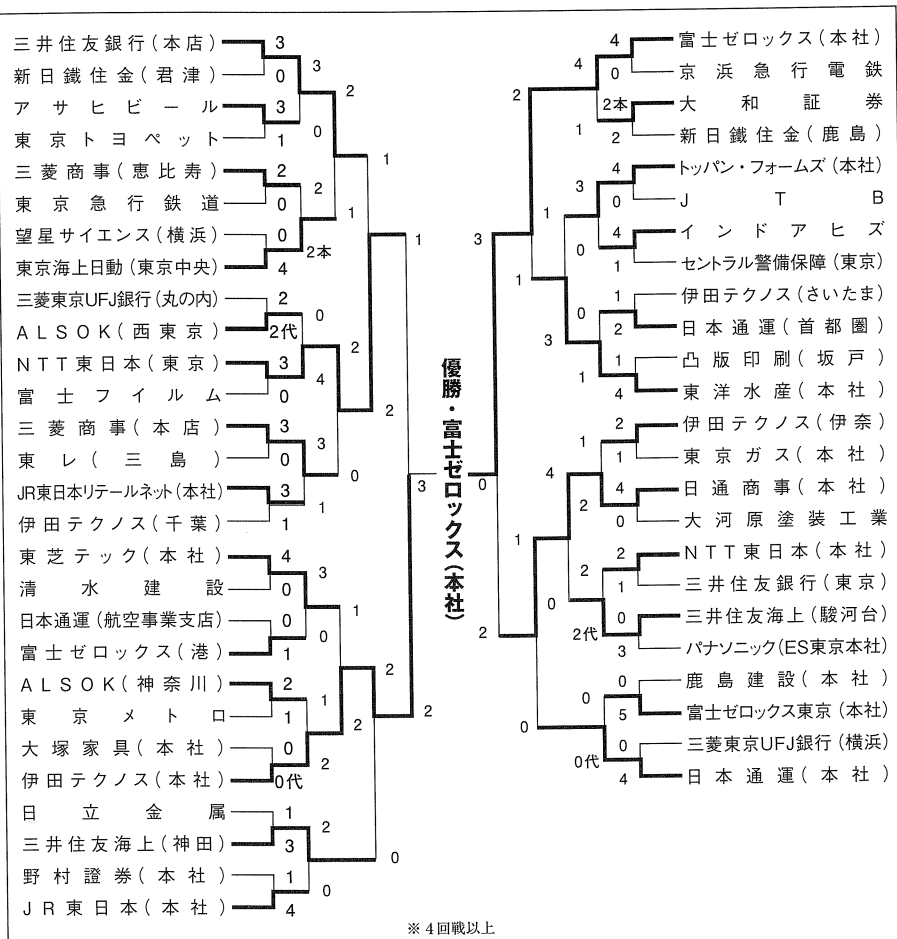
富士ゼロックス(本社) 2-1 東洋水産(本社)
【先鋒】米満 ⑤メー 大貫

準々決勝



伊田テクノス(本社) 2-1 東芝テック(本社)
【副将】橋本 ① 村川

▲東芝テックの先鋒千葉がメンの二本勝ちを挙げてチームにリードをもちたが、伊田テクノスの中堅の石山が勝利してタイに戻す。再びリードを奪いたい村川は積極的に橋本を攻める。村川のメンもいい機会をとらえるが、試合巧者橋本が出ななをコテに押さえる(写真)



※ 4 回戦以上

【中堅】石山(伊田テクノス・本社) ④ー 岡(NTT東日本・東京)

▲先鋒岡末の逆転勝利を受けた石山が奮起。ベテラン岡からメンを奪って貴重な2勝目を挙げる(写真は攻防。左が石山)。苦しい立場に追い込まれたNTT東日本は副将阿南が実力者橋本からコテを奪うも続く大将下村が決め切れず、伊田テクノスの前に散った

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
伊田テクノス(本社)	④	岡末	水森	石山	橋本	奥島	2
NTT東日本(東京)	⑤	青木	若松	岡	阿南	下村	1

勝を重ねてゲームセットとなった。富士ゼロックスの監督には、かつては同社のポイントゲッターを務めた野口淳司氏が今期から就任、連覇達成の感想を、「就任したばかりの身としてはホッとしたというのが正直なところ。いいメンバーがいるのでいかに彼らに気持ちよく試合してもらおうかという部分に気を配りました。組み合わせも厳しかったですが、『目の前の試合に集中しよう』ということだけは散々言ってきました」と語ると、その後口をついて出たのは控える全日本大会への思いだ。「全日本こそが一番のターゲット。そこに向けてまた部内で競争させなければ」



日通商事(本社) 1-0 日本通運(本社)
【大将】山内 × 谷口

▲グループ企業として日頃からともに稽古を積む両チームが激突。次鋒戦、日通商事の中野が初太刀のコテを一本としてリードを奪う。中堅、そして副将と引き分けて、ついに大将戦へ。一本を追う谷口が上段山内に攻めかかるも(写真)、山内は決定打を許さなかった



伊田テクノス(本社) 2-0 三井住友海上(神田)
【大将】奥島 ②ー 関口

▲20代の選手で構成された三井住友海上神田チームが準々決勝へと進出した。試合が動いたのは副将戦、伊田テクノス橋本が対する中津を巧みに引き出してメンを決めた。大将戦、追いつきたい関口が果敢に攻めるが、奥島が出ななをメンにとらえて猛追を振り切る(写真)



準決勝



【次鋒】東郷(富士ゼロックス・本社) ③メー 中野(日通商事・本社)

▲先鋒米満の鮮やかな片手ゴテによって白星スタートを切った富士ゼロックス。続く東郷も前への攻め込みからひきゴテに転じて一本先取。二本目となるや、中野が出てくるのを見越して体をさばきメンに仕留めた(写真)。中堅戦も上原が勝利。勢いに乗る前衛3人で日通商事を下した

チーム	順	先	次	中	副	大	得点
富士ゼロックス(本社)	③	米満	東郷	上原	北川	岩川	3
日通商事(本社)	④	金成	中野	川賀	賀山	山内	2

準々決勝



NTT東日本東京 2-1 三井住友銀行(本店)
【中堅】岡 ②ー 軸原

▶前回大会3位に入賞している三井住友銀行が2年連続のベスト4入賞に迫る。先鋒の山田が白星を奪う好発進を見せた三井住友銀行。2勝目を狙いたい中野だったがここでは岡がメン、そしてコテを奪って二本勝ち(写真)。逆転の1勝を挙げる。その後の大将戦でもNTT東日本下村が二本を奪う快勝を見せた



2位 伊田テクノス(本社)

工藤礼佳(24歳)、松本実姫(22歳)、志藤綾子(24歳)、監督=楢崎亘(46歳)



3位 東洋水産(本社)

澤田舞々(31歳)、津島里帆(24歳)、佐久間由樹(25歳)、川崎和子(38歳)、監督=小林秀寿(46歳)



3位 富士ゼロックス東京(城西)

本吉千香(23歳)、福山美智子(28歳)、北上麻美(32歳)、桃井裕美(36歳)、監督=出沼博(48歳)



【代表】北上(富士ゼロックス東京・城西)ド― 石川(NIPPO)

▲一本勝ちで代表戦に持ち込んだ大将北上と、先鋒戦で一本勝ちした石川の対戦。最後は石川のメンに旗一本、北上のドウに旗が二本あがって決着(写真)



【代表】寺地(JR東日本リテールネット・本社)メ― 佐久間(東洋水産・本社)

▲昨年ベスト4入りしたシードチームが、次々と緒戦で敗退していく中、昨年の覇者・東洋水産(本社)は着実に前進し、3年連続の準決勝進出。実力伯仲の準決勝は、代表戦の末、上段の佐久間に対し、鋭い技を次々とくり出す寺地が一瞬の隙を捉えてメンで勝利(写真は攻防。左が寺地)



【中堅】松本(伊田テクノス・本社)㊗― 荒木(三井住友海上・本店)

▲先鋒戦引き分けのあと、中堅戦では激しい攻防から放った松本のメンに旗が二本翻り一本勝ち(写真)。伊田テクノスは、大将戦を引き分けベスト4進出

【大将】佐久間(東洋水産・本社)㊗― 若度(NTT東日本・東京)

▲昨年、両者は対戦こそしていないが決勝の舞台に立っている。0-0で迎えた大将戦は上段の佐久間が柔軟な剣さばきをみせ、最後はひきメンを奪取(写真)

【大将】高橋(JR東日本リテールネット・本社)×奥村(富士ゼロックス東京本社)
▲先鋒戦で寺地が一本勝ちを収め、1-0で大将勝負。今春法政大学を卒業した高橋に対し、法政大学OGであり、3年前本大会で最優秀選手となった奥村が果敢に攻めかかるが写真右が奥村、終了間際の諸手ツキも本にならず、こぼし高橋がしのぎをつけた

チーム	順	先	中	大	得点	代
JR 東日本リテールネット(本社)	1	寺地	坂田	高橋	1	寺地
伊田テクノス	2	工藤	松本	志藤	1	志藤

チーム	順	先	中	大	得点	代
JR 東日本リテールネット(本社)	1	寺地	坂田	高橋	0	寺地
東洋水産(本社)	2	澤田	津島	佐久間	0	佐久間

チーム	順	先	中	大	得点	代
伊田テクノス	1	工藤	松本	志藤	1	志藤
富士ゼロックス東京(城西)	2	元吉	福山	北上	1	福山



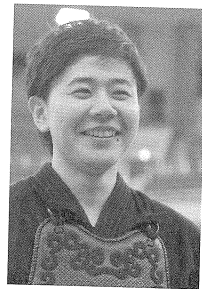
【中堅】坂田(JR東日本リテールネット・本社)㊗― 松本(伊田テクノス・本社)

▲果敢に一本を狙いにいった坂田が、中盤、松本の手元の浮きにコテを打ち込み一本勝ちし(写真)、あとにつなげた。代表戦は志藤にも惜しい技が見られたが、最後は寺地がコテをすり落とすようにしてメンを決めている



優勝 JR東日本リテールネット(本社)

寺地はるか(25歳)、坂田夏穂(24歳)、高橋海(23歳)、上野詩織(29歳)、監督=朝日一博(45歳)



最優秀選手賞 寺地はるか
(JR東日本リテールネット・本社)

3人制ということもあるが、各チーム間の力が拮抗する女子の部は、大将戦代表戦となる試合も多く、今大会では準決勝2試合と決勝がすべて代表戦での決着となった。一昨年に次ぐ2度目の優勝を果たしたJR東日本リテールネット(本社)は、いずれも先鋒の寺地が代表戦に挑んだが、決勝の際は、メンバー3人がそろって「私が行きます」と代表戦の戦いを希望したという。最終的には朝日一博監督が、唯一前回の優勝メンバーである最年長の寺地に託し、寺地もその重責に応えた。試合後、朝日監督は、「3月の全日本大会では出場した2チームがいずれも1回戦負けでした。今回は、私たちに風が吹いたというだけでそう差はないと思います」と謙虚に受け止めています。日々強固な意思で自主的に稽古に励むメンバーを称えている。

決勝を争った伊田テクノス(本社)は女子部が設立されて今年が3年目という。一昨年に志藤が入社し、昨年は工藤と志藤の二人で本大会に参戦。松本が入社してようやく3名そろった本大会で、新鋭がいきなり2位の好結果を出した。決勝は代表戦で敗れたものの、楢崎亘監督は「初優勝も狙っていましたが、『そんなに簡単にはいかないぞ』と試練を与えてもらったと受け止めています。この試練が結果的には良かったと思います。今後とも頑張っていきたいと思っています」と話している。実業団女子剣道の紙一重の攻防は、しばらく続きそうだ。

